

令和 8 年 8 月

結城市教育委員会定例会議事録

結城市教育委員会

令和 8 年 8 月 結城市教育委員会定例会

○日 時 令和 8 年 8 月 2 4 日（月曜日）

○場 所 結城市役所 4 階 大議室 1

○出席委員 黒田光浩教育長
岩崎勤委員（教育長職務代理者）
中村義明委員
赤木信之委員
田中昌希委員

○教育委員会事務局

教育部長 河田圭一郎
学校教育課長 和泉田真、教育支援課長 藤田清一、
生涯学習課長 斉藤高司、スポーツ振興課長 仁見 剛、
学校教育課課長補佐兼施設係長 阿久津智弘、
学校教育課教育政策推進係長 田所將之、
学校教育課学務係長 山口明良

1 付議案件 なし

2 報告事項

（1）報告第 7 号 教育長報告について

事務局

皆様、おはようございます。

定例会の開催に当たりまして、先に会議資料を確認させていただきます。

本日の資料は、事前に配付をさせていただいた令和 8 年 8 月教育委員会定例会の冊子のもの、それから当日配付ということで、赤木委員のほうから新聞記事が 4 部、文部科学省からの冊子ということで 1 冊あるかと思えます。教育委員会のほうからは、こちらの A4 の横の資料、ゆうき音楽文化振興プロジェクトということでスケジュールが載っているものになります。そのほか、先日行われました第 1 回結城南中学校区新設校推進委員会の報告書ということなのですが、こちらにつきましてはあくまでもまだ未定稿でございますので、参考資料ということでご提示をさせていただいている資料になります。

資料の不足等はございませんでしょうか。

(発言する者なし)

事務局

続きまして、本日は 1 名の方から傍聴の申出を受けております。ご報告いたします。

それでは、ただいまから定例会を始めさせていただきます。

黒田教育長より開会宣言をお願いいたします。

教育長

では、本日の出席委員は 4 名でございます。定足数に達しておりますので、ただいまから令和 8 年 8 月教育委員会定例会を開会いたします。

議事に入る前に、定例会の議事録署名人を指名いたします。岩崎委員にお願いします。

それでは、これより議案の審議に入りますが、本日は議案がございませんので、報告事項から始めさせていただきます。

まず、教育長報告を後回しにして、最初に 8 月 20 日木曜日に実施されました結城南中学校区新設校推進委員会の報告についてお願いしたいと思います。

まず、和泉田課長、よろしくお願いします。

学校教育課長

それでは、資料ですが、お手元の第 1 回推進委員会委嘱状、次第と、それから資料の 1、2、3 ということで、3 つございますので、順次ご説明させていただきます。

8 月 20 日木曜日に第 1 回目の推進委員会を開催させていただきました。当日は市長もご出席をいただきまして、ご挨拶をいただいております。

議案のほうは、結城南中学校新設校に関する経緯ということで、これまでどういった経緯で進めてきたかというところを改めてご説明させていただきました。

2 番目としまして、児童数及び入学予定者数の推移ということで、今後どういった推移になってくるのか、これは南中学校区だけではなくて、結城中学校区、結城東中学校区についてもお示しをさせていただきました。

3 番目としまして、今後の結城市学校適正配置の検討体制ということで、今ある推進委員会を一度、検討委員会のほうに戻しまして、ここでもう一度検討していただくというこの組織についてのご提案をさせていただいたところでございます。

資料についてご説明させていただきます。

資料の 1 なんですが、令和 2 年度末から学校再編の方向性というものの検討が始まったというところでお示しさせていただきました。

見ていただきますと、かなりの回数、推進委員会も含めてですけれども、何回も開催されておりまして、非常に多くの方に関わっていただいたということがこの資料から分かるかと思います。都度、議会のほうには進捗状況等も含めてご報告をさせていただきましたけれども、予算のほうがなかなか確保できず、建設事業が止まっているという状況をご説明させていただきました。

2 番目の資料の 2 のところなんですが、児童数及び入学予定者数の推計ということで、こちらは令和 8 年 5 月 1 日現在と、それから 14 年度の見込みということで比較させた表になっております。どちらの学校もかなり想定を上回る勢いで児童数、それから生徒数が減っていくという状況が見てとれます。特に南中学校区につきましては、14 年度の入学者数が一桁台になっているという状況がございますので、ある程度、この辺は学校の規模感、そういったものを考えますと、統合の方向性というのは堅持したいかなというところがございます。

資料の 2 の 2 ページ目をみていただきますと、こちらは結城中学校区と結城東中学校区ということで、こちらも数字のほうを載せております。

こちらの学校につきましては、南中学校区ほどではないんですが、やはり児童数の減少というのは続いているということでございますので、問題意識としましては、結城市全体の課題であるということで、共通の認識を図っていただくような資料になってございます。

3 ページ目は入学予定者数の推計になっているんですけれども、右肩下がりになっているという状況でございます。

続きまして、資料の 3 になります。こちら A 3 の横長の資料になるんですけれども、真ん中の辺りに薄いクリーム色のところがあるんですが、いわゆる今推進している推進委員会を検討委員会というところに一度戻っていただいて、こちらで小学校の統合、学校建設等も含めて検討していただく組織として考えていきたいということでご提案をしたところです。

横の並びを見ていただきますと、結城中学校区、それから結城東中学校、同じように検討委員会という形で組織を立ち上げまして、方向性が決まり次第、下側に移行と書いてあると思うんですけれども、また推進委員会という形で推進を進めていくということで考えています。

ただ、この推進体制の中心は、やはり南中学校区になると思いますので、そちらを中心に来年度以降、組織を立ち上げて、結城市全体で学校再編、

学校の在り方を含めて検討していただくというような体制を考えているということでお示しをさせていただきました。

それから、本日お配りさせていただいた報告書ということで、こちらにつきましては、速報ということでまとめた資料にはなりますので、まだ正式な調整等が済んではないので、これからきちんとした形で精査をして報告したいと思っております。

内容につきましては、こちらに書いてあるとおり、今回は推進委員会ですので、南中学校区の新設校に関しては推進する立場で、今、現状進んでいない状況については非常に残念だというふうなご意見を多数いただきました。それに関しましては、結城市としましては、今いる子供たちのために何ができるのかということを中心に考えて、統合の在り方も含めて新しい組織で検討していただくということで回答させていただいた内容になります。こちらにつきましては、お時間があるときに見ていただきまして、ご質問等につきましては随時受けたいと思いますので、よろしくお願いします。

以上でございます。

教育長

ありがとうございました。

今、新設校推進委員会のことについて説明させていただきましたが、何かご質問等ありましたらお願いします。

岩崎委員。

岩崎委員

児童生徒数の減少というのが著しいというのが頂いた資料の中で分かりますが、議会のほうの考えというのもあると思うんですが、文科省とか県のほうの、こういう少人数になった場合の統廃合ということについてはどういう感じで、文科省とかはそういう指示というか、そういうものを出されているのかちょっとお聞かせいただきたいんですけども。

教育長

私のほうから、この前もそのことで、私の考えということで述べさせていただいたんですけども、それは私の考えではなくて、文科省の考えなんで、それを簡単に説明させていただきますと、そもそも2015年に適正配置ということ言われたのが小学校12学級以上、中学校が9クラス以上ということで、クラス替えができるようにということで文科省のほうは言ってきたと思うんです。ただ、それはあくまでも基本というか、目安であって、そうしなければならないということではないんだということ。何が一番大事なのかといたら、あくまでも子供の教育条件をどう整えるかを軸に考えるということ。子供の教育条件、子供の教育環境ということを大事に考えてくださいよ。ですので、統合とか存続いずれの場合であっても、その利点を生かして子供たちのために教育をやってもらいたいということを言っていて、そこから、この前、令和の日本型学校教育というのが発表になったと思うんですけども、それも、その基本線というのは守られているんです。今も、ですから、ある程度、12学級、学級編制ができるようにということは守られているんですが、さらに3つの観点を示さ

れたということが令和の日本型学校教育だということ。

その3つというのは、まず1つは広域化、それはどういうことかといったら、何も結城市だけじゃなくて、隣接の市町と組んだっていいんじゃないかと。県が違おうとできないかもしれないですけども、県外の地区とか、一緒になったっていいじゃないかということを文科省は言っている。それが広域化ということなんです。

次が、総合化ということは、総合的に考えてくださいというのは、教育委員会だけでそれをやるんじゃないくて、市長部局と一緒にあって、すでに結城市は市長部局と一緒にあってやっているんですけども。全市を挙げてやっていってくださいねというのが総合化ということ。

あと、もう一つは現代化ということを言っているんです。現代化というのは、GIGAスクールのICTを使ったり、コンピューターを使ったりして、それを利用してやってくださいよ。なので、結城市では県のモデルとなっている結城一高と鬼怒商業の遠隔授業という、そういうものを小中学校でやったっていいじゃないかと。それが現代化という、広域化と総合化と現代化ということで進んでくださいねということで、基本線は変わっていないということなんです。

だから、いろいろもっともっと柔軟にやっていいですよということを言っているようなところなんで、私の考えとしては、少子化、少子化と言っていますけれども、少子化というのは教育を縮小する理由ではないと思っています。とにかく逆に少子化になって、教育の価値を改めて考えて、持続可能で質の高い制度というのを設定するのが、そういういい機会になっているんじゃないかということを私はお話しさせていただきました。

持続可能ということかというと、この前もちょっと出たんですけども、小規模特認校10人ぐらいの学校で、じゃ理科やりましょうとか、ここは特別に総合的な学習をやりましょうとか体験学習をやる。それは大いに結構だと思う。ただし、持続可能となったら、現状はなかなか厳しい。

ですので、少子化というのは教育を縮小する理由ではないと。少子化だからどうのこうのという。逆に少子化だから、いい教育、充実した教育ができるんじゃないかな、そういうことをやっぱり考えていきたいと思う。

今までも、何回も言いますけれども、子供の教育条件をどう整えるかということが、これが基本であって、それは変わっていない。柔軟にどんどん各自治体で検討していってくださいねというのが今の状況。

岩崎委員

文科省のその指示というのも今ご説明いただいて分かったんですが、今現在、いろんな面のところで人数が減っていることによって保護者も減る、学校のいろんな除草作業とか奉仕作業もなかなかままならない、特定の人だけが負担がかかるとかいろんな問題があって、そういうのって、今までだと、統合するから、この後はなくなるよねというふうに、ちょっと前は話になっていたんですが、そうじゃなくなったんで、今やっぱりそういうのがまたいろいろ出ているんですね。そういうのを、我々もそうなんです。

けれども、議員さんとかそういう人が現場のことをもうちょっと実際に見て理解していただいて、もう少しそういうのを踏まえて再考していただけないかなというふうにちょっと思っているんです。

実際に子供たち、保護者、それから市のほうの事務局というか、体制というか、うまくこう、その意見がなかなか埋まらないんですけれども、今後やっぱりその辺をどういうふうに埋めていくかというか、調整していくかというのが非常に我々も関心あるし、保護者のほうも関心があると思うんですが。

教育長

1つ、この前申し訳なかったなと思うのは、江川南小学校の会長さんが言っていたのは、私たちはとにかく旅行へ行くのにもバス1台借りるのに8人、9人でお金を割って、それで行けなさいいけない。いろんな連携事業はやっている、宿泊学習も5校集まってやっている。だったら、何で修学旅行とか遠足なんかでできなかったのかなということで、その辺はやっぱり当事者意識を持ってやってもらいたい。今度の9月の校長会では言おうと思っている、もっともっと考えてくれと。もう乗り入れ授業とか出前授業なんかどんどんやっているんですけれども、そうじゃなくて経済的なことも考えて、2つか3つの学校で遠足へ行ったり、あとは総合的な学習は、せっかく上山川なんかでお蚕飼っているんだったら、上山川と山川がくっついてもいいし。そのために結城市のバスを使って、総合的な学習は合同でやっていますよとか、音楽は月に2回は一緒にやっていますよ。みんな合唱とかなんかをできない、そういうことはもっともっとできたはずだなと思って、反省しています。

とにかく小中連携から小中一貫教育というのはもう10年以上も前から結城市は取り入れて、そういう形でやってきているんで、そのことをもっともっと具体的に進めさせなければいけないなと思ったのが事実なんで、そういうところは学校現場のほうへも下ろしていきたいと思います。

中村委員。

中村委員

この推進委員会は本当に大変な課題を抱えていると思うんですが、この推進委員会の皆さんがどのくらい力を発揮してくれるかというのを私は期待しているんです。今回こういうふうな新しいものを生み出すときに、私は2面あると思うんですけれども、1つは教育内容ですよね。先ほどG I G Aスクール云々という話も出ましたが、新しい教育をやっぱりしていかなきゃならない。じゃどうするか。それともう一つ、1面は、やっぱり予算なんです。本当に企画のほうできちんとした計画を立てながら、新しい教育を踏まえてのね。予算を立てて、それが通らないと何もならないんですよね。

ここにきて、やっぱり物すごく教育環境って変わってくると思うんです。とにかく、いわゆる1つだけいえば、A Iのテクノロジーかな、これがもう目まぐるしく入ってきて、子供たちが置いていかれちゃうと思うんです。今、恐らく子供たちのパフォーマンス力というのが求められてくると思う

んですよ。

自分はやっぱり今、危機感を持っているんで、教育内容がやっぱり、統合云々、関係なくても、教育内容はもう待ったなしなんです、教育内容の革新というか、教育技術の革新というのかな。だから、それを実施できるようにするには、どうしたらいいんでしょう、私は具体的にはそういうアイデアはないんですけども、ちょっと懸念材料が多過ぎます。

教育長

赤木委員。

赤木委員

私も中村先生の意見、全く同じなんですけれども、やっぱり今までは本当に、令和に入ってから新設校の設置ということで、事務局や各学校の先生方が一生懸命頑張りながら、新しい学校を目指してということでやってきていただいているわけなんですけど、議会で否決されてしまう。その否決の理由も分からなくはないんですが、地元を大事にする、自分たちの学校を大切にしたいという気持ちは分かるんですが、でも、実際に例えばそれぞれの小学校の授業の様子を比べた場合に、子供たちの動きというのは全然違うわけです。そういうものを生で、例えば議員さんに見ていただきながら、あるいは教育福祉委員の議員さん方に見ていただきながら、これでいいんだろうか、この子供たちは伸びるんだろうか、幸せなんだろうかとというふうな視点から見ていただいて、もうちょっと小さい学校の子供たちの環境を整えて学習意欲を上げるという観点から見たら、どういふふうな方法がいいんだろうということをやっぱり最終決断する議員さん方に見ていただいて、今後どうすべきかということを率直に検討してもらう必要があるのかな。

何か今までの流れを見てくると、机上の空論じゃないですけども、頭の中ではそういうイメージがあるけれども、実際の子供たちの姿が伝わっていないような気がするんですよ。そういうものを見ていただきながら、どうしたらいいんだろう。例えば予算がないということであれば、その予算を確保するためにどうしていったらいいんだろうということをいろいろ、学校はもとより地域、そして議員さんと、という形で、じゃ子供たちのために何をしていくことが一番大事なのかなということを検討してもらうことがこれからの課題じゃないかなと思うんですけども。

教育長

岩崎委員。

岩崎委員

中村委員、赤木委員からあったA I の時代ということで、これちょうど私が教育委員になったばかりのときに、そのとき教育長、その当時、南中の校長先生だったんで報告したと思うんですけども、島根の隠岐島前高校に実際に行って授業も見させてもらったんですけども、10年前で既に2030年にA I によって多くの仕事が失われるという時代、そういう時代にどうやって子供たちを対応させようか、そういう取組。それともう一つは隠岐の島ですから、消滅自治体と当時言われていたところなので、魅力ある教育で新たな移住者を確保しようという、そういう取組を併せて、もう10年前ですよ、取組をやって。それを実際見させていただいて、

そのときにGIGAスクール構想の多分、基礎とかそういうのも全てあそこに既に備わっていて、それに対して、いかにディスカッション、プレゼン、そういうもう高校生でも見ても企業に入る即戦力になるだろうというような、そういう教育だったんですよね。

それから、地域はどういうふうに、今のスクールコミュニティの基じゃないかなと思うんですけれども、いかに学校と地域がうまくタイアップしてというのも既にやっています。そういうのも実際に、私はチャンスがあって見させてもらったんですけれども、そういうのを見ているので、そういうイメージで今回の統合というのも見せていただいているんです。そういうことで見ると、じゃ自分たちの、それが全て同じ、結城市に適用できるかという、そういうことはないと思うんですが、それでも、その中でいいものは、ここはいいよね、こういう取組はいいねとかって、そういう発想になってほしいなと。

今、いろんな議員さんと話をしている中で、議員さんの意見は分かるし、そういう意見もよく分かるんですが、やはりもうその当時、10年前でも、5年どころじゃない、3年、いや、来年だって分からないよと、それだけでもうどんどん時代変わっているから、だから、それに対応できる子供たちの育成ということでそういうふうにやっている、かなりそういうふうに危機感を持ってやっている自治体と、何かそうじゃなくて、何となく来ちゃっている自治体というのは相当差が出ちゃうんだと思うので、そういうのすごく残念に思っているんですけれども。

教育長

藤田課長、今、AIとかプログラミング教育ってどんなことを子供たちに現場でやっているのか、簡単に説明をお願いします。

教育支援課長

では、まずプログラミング教育なんですけれども、これは本市は進んでおりまして、日本ではビジュアル型と言われる、ブロックを合わせてプログラムをするようなものが主流なんですけれども、実際、社会で使われているのはテキスト型という、英語のプログラムを使ってプログラムにするものが実際使われておりますので、そちらの学習を小学生のうちから行っております。もちろん小学生ですから、線を引いたりとか図形を描いたり、絵を描いたりという簡単なものから行うわけですが、プログラムという点では非常に進んでいるかなというふうに思います。

それから、AIにつきましては、今年度、まず文科省のほうからAIを使うことに関するガイドラインというのが2年ぐらい前に出ました。そこで、やはりそのまま使うと個人情報の問題であるとか、非常に危険であるということが示されておりまして、それを基に教職員向けの研修をこの夏休みに各学校で委員会として行いました。

さらに、今後は実際に子供たちにどう使わせるか。ここは慎重にやらなくてはいけないところであるので、先進的に実施している学校さんがありますので、まずは指導主事が研修に行って、結城市でできるものはどの程度のことができるかということをこれから検討したいというふうに考えて

おります。

教育長

藤田課長に話してもらいましたが、結城市は、結構先進的にやっていると。それは私がいるとかそんなじゃなくて、絹川小学校で退職なさった先生がいっぱい。これがもう物すごいICTにたけている先生なんで、プログラムとか、あとAIの使い方というのをお願いしているんで、ほかよりも結構進んでいると思います。最終的には、テキスト型プログラミングということは、大学受験の情報もそうなんですよね。情報教育というのは1年目、2年目、50点以下ですごい低かったんで敬遠されていますけれども、結城市でそれに向けてやってくれということで、そういう現状を、子供たちが本当に活性化でき小学校、中学校あたりでも、そういうところで、大学受験なんかで使えるかもしれないんだよということで、今やってもらっているんです。プログラミングとかAIにしても、AIは、じゃAIを使おうというじゃなくて、それをいったら、教育長、そうじゃなくて、やっぱりAIというのは使い方があるんですよ。そっちをしっかりとやらなかったら、もうとんでもないことになるんでということで、夏休み、今言ってもらったように、先生たちに指導してもらって、子供たちには徹底的に使い方を。その後、どんどんAIについてやっていこうということで今進めていて、プログラミングとかAIって意外と何やっているか分からないんですよ。でも、結城市よくやっているなって、あとはAIの使い方の教科書を作ってくれとか、あとは大学入試に関して、大学入試、練習問題を中学生バージョンとか小学生バージョンで作って、これをやれば大学受かるかなとか、何か目に見えるような形でやってくれと今言っていて、今本当にいろいろやってもらっているような状況です。

中村委員

今、その話を聞いて、私うれしかったことがあるんです。南中の計画訪問に随行させてもらって、南中の技術家庭のプログラミングの授業を見させてもらったの。これ久しぶりに、あの授業を見て気持ちよくなりました。もうほかでもきつとやっていると思うんですけれども、かなり高度なことをやっているんで、へえと思ったんですよ。プログラミング、ベーシックですよ、言語を使って。子供がね、みんな、普通であれば、私がレベルを中学生に置いたときに、グラフィックを動かすまではできそうだけれども、グラフィックを一つのいろんな条件によって、あるトリガーで、そこに従って動かすという、それはレベル高いんですよ。ゴーサブ、リターンという一つのルーチンありますけれどもね、それなんかも完全にやっているんで、これは将来すごいなと思ってね。

今の子供たちは、それはもう自分の身の回りのそういうふうな、ゲームなんかもそうですよね。常にあふれているので、すんなり入っていけると思うんですよ。それをどんどんやっぱり進めていって、結城はこうやっているんだよというのを幾らでも私は外へ出していいと思うんですよ。かなりレベルの高いものを持っているんで、どんどん利用するというと変な言葉だけれども、頑張ってもらってね。結城にプログラミングありとか、そ

ういうふうなね、やっぱり一つ的话题を提供できるぐらいのものを私は望めるのかなと思うんです。

そういうふうにしていくと、やっぱり全然変わってくると思うんです。だから、アピールですよ。学校はこれだけやっていると。学校、あるいは事務局がこれだけやって、それを認めていきましょうという、それはどんどんアピールしたらいいと思うんですよね。

教育長

ありがとうございます。

赤木委員。

赤木委員

私もあまりA Iとかプログラミングということについては全然理解はしていないんですが、ちょっと話が飛んじやっているような気がするんですよ。もっと基本は、結城の小学校、南中学校区の小学校をどうするのかということだと思うんですよね。この14年の入学生の数なんかを見ると、この人数で教育していきましょう、やればいいのかもわからないんですけども、魅力ある学校をつくりましょう、魅力ある教育を進めましょうといっても、人数がない中で、何か言葉ばかりが先走っちゃってる気がして、どうしなくちゃならないのかということをもっと基本に戻って再考してもらい必要があるのかな。そのために学校はもちろんですけれども、議員さん方にもそのあたりのところを、実際の姿を見ていただいて、じゃ子供たちのためにどうすることが必要なのか、どうしなくちゃならないのかということを検討してもらっていく必要があるのかなと思うんですが。

中村委員

ちょっといいかな。ちょっと私なんか、考えがちょっと違うかもしれないんだけど、私がさっきちょっと科学分野のことを申し上げたのは、これから新しい教育をするために、統合して、新しい施設を造って、そこで先駆的に新しくどんどん進める、そういう何ていうのかな、ネットワークをつくるんですよという、そういうアピールをしたいなと思う関係で話をさせていただきました。

教育長

田中委員、お願いします。

田中委員

保護者側として、今までも、結局人数が減ると、今すごく登下校も本当に人数が少なくなっちゃって、下の子も下校のとき、1、2年生以降となると、1年生4人で帰ってくるんです。小学校から家まで2.2キロ以上、そこを歩いてくるので、やっぱり親の見守りとか、地域の人も見守り、私たちが交替で見守りに行っているんですけども、そういう現状とか、本当に安全というのも、教育環境もそうだし、至るまでの安全とかも脅かされているんだという話とか。あと、先ほど教育長からも話がありましたが、バス代、宿泊費、遠足とかのバス代も本当に大変なんだという話をして、そうしたら議員さんも、統合は本当に必要だということは分かってきてくれていて、じゃどうするかというところで止まっていて、学校適正配置推進体制案ということで資料があるんですが、それも結城南中学校区のほうで、市が現行の基本計画を改定すると書いてあるんですよね、なので、その改定は実際いつ行うのかとか、そういったのって、やっぱり保護者側か

らするといつになるんだろうというのがあるので、今のところいつにこの基本計画を改定するというのは決めていたりはするんですかね。

事務局

私のほうからちょっとお答えさせていただきますと、まず組織立てのほうを今年度中に、この新しい検討委員会を立ち上げて、招集をかけて、これからどういった内容でその委員会を進めていくかというのを年度内にはやりたいと思っています。今のところ新設校の推進委員会のままです、そちらも当然廃止もしていませんし、審議会のほうに移行もしていませんので、年度内中にはそれをして、その委員会で検討していただける内容と、あとスケジュール、今おっしゃられた基本計画見直しなんかも早期にやっていかなきゃならないので、そちらのスケジュールを立てた上でお知らせできればなというのが正直なところです。

ただ、今までの話にも出ているように少子化がかなり想定以上に進んでいますので、スピード感を持ってやりたいなというのはあります。ちょっと詳しくお答えできなくても申し訳ないんですけども、現状ではそのような感じです。

田中委員
教育長

よろしくお願いします。

ありがとうございました。

また何かございましたら、遠慮なく教育委員会のほうに連絡してください。

この前言われたのは、少子化というのは小中学校だけじゃないんだって、高校も大学もあるんですよ。だから、高校も今、統合なんかどんどん進んでいますし、大学だってもうなくなっちゃっているんですよ。それは小中学校、保育所も含めて、それだけではないということで、全体的に考えていかなきゃいけない問題なんだなということを感じました。ありがとうございました。

では、続きまして、教育長報告ということで、レジュメに沿って簡単に説明させていただきます。

◎報告第7号 教育長報告について

教育長

1 ページをご覧ください。

報告第7号 教育長報告について。

上記のことについて、別記のとおり報告する。

令和8年8月24日提出、結城市教育委員会教育長、黒田光浩。

では、2 ページをご覧ください。簡単に説明させていただきます。

教育長報告です。

1 番、凡事徹底じゃなくて、凡事再徹底ということで、当事者意識というのは何なのかということ、これ9月2日の校長会、あと9月8日の教頭会のほうでももう一回、徹底していきたいと考えております。

(1) 落ち着いた学習環境での学力定着をとということで、この前、全国学調の結果が出てきたようです。どこが何点で、そういうことは言えませ

んけれども、それを基にして、自分の学校で何をやらなきゃいけないのかということを考えていかなきゃいけないんだということをお話ししたいと思います。

中学校が学力低くなっているのは、小学校の先生が一生懸命やってないからと、そういう問題じゃないんだよということで、真剣に当事者意識を、持ってもらいたいということなんです。小中連携、それでやっていっていただきたい。

次が英語教育の充実ということで、そちらに書いてあるんですけども、全国学調のほうで、3年ぶりにやった英語が相当、茨城県全体で悪くて、どうするかということで、英語の先生たちを全部、英検準1級以上、TOEICは785点以上にしましょうということで、じゃどういうふうにやるんですかということで、結城市の教育研究会ですけども、英語できませんでした、そういう資格を取らせてくださいよといって、何をやっているのか。ほかは、じゃ取りあえず英語の先生方集まって研修会を3回やりましょうと。じゃうちはやっているのか、やっていないね、藤田課長。

だから、それがやっぱり当事者意識の欠如だと思うんです。誰かの問題にしちゃっている。自分らでしっかりやっていこうということが、まだまだちょっとそういう意識が足りないなということを感じました。

あとは、結城スタイルというのをすごくよくやってくれているんですけども、各授業で。それをもっともっと徹底していければなと思います。ちなみに道徳や学級活動というのをもっとしっかり学校でやっていかなかったら、子供たちの非認知能力が上がらないのかなということを感じていますので、そちらのほうもしっかりと、いろんな体験活動を含めて非認知能力を上げて、それが結局は認知能力につながっていくという、渋沢・渋幕の理事長さんが言っていたことを再徹底していきたいと思います。

(2)で、通学路を含めた安全点検の結果ということで、そちらのほう、危ないところがあったらすぐに対応してください、スズメバチですよ。この前も何かどこかで蜂に刺されたというのがあるんで、必ず9月になると蜂に刺されたというのがありますので、その辺のところを徹底していきたいと思います。

(3)で、児童生徒、職員もそうなんですけれども、小さな変化への気づき。こちら文科省の資料、コピーしてもらったもの、ありがとうございました。これそうなんですけれども、9月1日当たりから1週間ちょっと、自殺防止週間なんですよね。毎回、自殺が一番多いのはそこで、2番目に多いのは7月7日か8日だということなんで、絶対にそういうことがないように小さい変化を、今度、9月1日に学校始まったときには、先生方には徹底して、気づいてくれということをお願いしていきたいと思います。

あとは、先生方も心身の健康ということで、業務の効率のストレス対応とか、あと交通事故とか速度違反、特に警察署長さんから言われたのは、9月1日から道路交通法が改正になって、生活道路が全部30キロになる

んだと。必ず取締りやるんじゃないかと思うんですよね。そこで引っかかっているようなことがあっちゃ駄目だということで、徹底したいと思います。

安全確認の基礎基本ということで、熱中症、まだまだ今日よりもあした暑くて、この辺も37度か38度になるんじゃないかということ言われています。何とか9月1日には収まってもらいたいんですけども、熱中症の危険はあると思います。その辺のところ、あとは保健室とか空き教室の確認などをさせていただければと思います。

職員の服務態度について、これは何回も、夏休み前にも、そちらのほう徹底してきたつもりです。

2番、茨城県の教育長会議の夏期研修会が8月10日にありました。いろいろと県のほうからもあって、あと、講演会で学校と地域の連携による放課後支援の実態と効果ということで、文教大学教授の先生からお話を聞かせていただきました。

3番、行事とその他について、簡単に説明していきます。

まず1番、北関東中学生野球大会について、仁見課長、お願いします。

スポーツ振興課長

(1) 番の第77回北関東中学生野球大会の結果ですけれども、記載のとおり優勝が小山城南中学校、準優勝が小山第二中学校で、優良チームとして結城ブレーブスが選考されました。

教育委員の皆様には、暑い中、開閉会式にご出席いただきまして、ありがとうございます。大会期間中ですが、閉会式で体調が悪くなった生徒が1名いましたけれども、ゲーム中においては、熱中症や大きなけが等もなく、無事、全日程を終了することができました。ありがとうございました。

教育長

ありがとうございました。

優良校、結城ブレーブスというのはAが取ったとかそんなんじゃないよね。A、B、C全体で非常にすばらしかったということでいいんですよね。

スポーツ振興課長

そうです。

教育長

ありがとうございました。

今、新人戦で、1、2年生のブレーブスもAチームが2チーム出たんですけれども、昨日も勝って、県西大会ベスト4。本当によく頑張ってくれていると思います。ありがとうございます。

(2) 番、(4) 番、(5) 番について、藤田課長、お願いします。

教育支援課長

まず(2) 番、各中学校区小中一貫教育協力会議についてですが、結城中学校区、結城南中学校区、結城東中学校区で8月4日に開催されました。教育委員の皆様にもご参加いただきました。ありがとうございます。

この会議を実施して、小学校、中学校が一貫した学びができるよう、南中学校に限らず全ての中学校区で情報の共有や中学1年生が安心して中学校がスタートできる、そのための協議をしているところです。

先ほどお話がありましたが、経済的な面についても、今後また話合いが

できるようにしていきたいなというふうに思っております。

(4) 番、市内科学作品・発明工夫展ですが、こちら9月12日、13日に市内展がJA結城の2階で開催されます。そこで金賞になったのが県西展、さらにはその後、さらに優秀なものは県へというふうに進むことになります。毎年、各学校からアイデアのある発明工夫展や興味深いの作品が展示されますので、ぜひご覧いただけたらというふうに思います。

続きまして、(5) 番、新人市内大会ですけれども、9月17日に新人市内大会が開催されます。これは県大会まで続くもので、10月6日に県西の新人大会、11月3日以降に県の新人大会が開催される予定になっております。

以上でございます。

教育長

ありがとうございました。

理科展のほう、県西展、今回10月3日、4日に八千代の公民館なんで、中村委員さん、ぜひ近いんで、皆さんもぜひ行っていただければと思います。

あとは、市内新人大会、9月17日なんですけれども、もう野球なんかはやらないし、やらないところが多いんですよね。

例えば昨日、教育テレビを見ていたら、中学校の全中の陸上をやっていたんですよね。陸上をやっていて、一番最後に400メートルの男女リレーやっていたんですけれども、男女のリレーはもう今年で終わりなんですって。来年からはやらない。なるほどなど。学校で出ているんじゃないんで、大体もうアスリートクラブ、クラブなんで、やる意味がなくなっちゃう。だから、もっともっと強いクラブチームが出てきちゃう。そういうところになっちゃって、もうやらないということなの。もう陸上、全中でも高校でも、リレーって花形だよな。それがもう全くなしになるし、あと、すみません、今日の読売新聞に載っていた、水泳で東中の生徒、ジュニアオリンピックで400メートルメドレー、優勝しているんですよね。あれも200メートルの個人メドレーは全中で3位なんですよ。400は何か調子悪かったのかな。あと結城中の女の子もバタフライで全国5位になっている。それは恐らく来年あたりからでしたっけ、全中の水泳やらないんですよね。なぜかといったら、同じような時期にジュニアオリンピックがやっているから、やらないとか、そういうのも出てきている。なるほどやっぱりそういうふうに関所々々で改革されているんだなということを感じたんです。そんなことを感じています。

すみません、(3)の市子連の福井派遣について、斉藤課長お願いします。

生涯学習課長

(3) 市子連の福井市派遣につきましては、先日8月21日金曜日から昨日帰ってきました、23日に帰ってきました。7月には教育委員さんのほうに出迎えありがとうございました。結城派遣プラス福井交流、両方とも子供親善大使の8人のお子さん、けがも病気もなく、無事帰ってきましたので、ご報告させていただきます。

教育長

ありがとうございました。

団長さんは上山川の方がまた今年も行っていただいたということです。
ありがとうございました。

(6) 番、東京室内管弦楽団小中学校巡回音楽鑑賞教室ということで、
9月28、29、30ありますので、計画表が出ていると思いますので、
ぜひ、せっかくの機会なんで、鑑賞していただければと思います。小学校
が管弦楽でしたっけ、中学校が弦楽器……

事務局
教育長

小学校が打楽器で中学校が弦。

小学校が打楽器で中学校が弦楽器だそうです。ぜひ、行く場合には教育
委員会に連絡してください。お話ししておきますので、よろしくお願いします。

まだ先なんですけれども、前期の終業式が10月9日金曜日です。後期
の始業式が10月13日火曜日ということになっております。参考として、
採用試験の結果が8月7日に出ました。3人受けて3人合格ということで、
小学校2人、中学校1人受かっているようです、ということです。

2番が、定例会、議会のほうが9月2日から9月18日までそういうこ
とで、今回は決算特別委員会もあります。今のところ教育行政のほうは3
人4件ということなんですけれども、いろいろなところでプラス3人4件
ぐらいは教育委員会が関わるということになっているようです。いろんな
質問が出ています。

今後の学校閉庁日、11月13日金曜日は県民の日、学校は閉庁日とい
うことになっております。

以上、教育長報告を終了させていただきます。

何かご質問等ありましたらお願いします。

岩崎委員。

岩崎委員

学校の通学路の安全もという話だったですけれども、それもそうですけ
れども、新学期というか夏休み明けの学校の環境ということで、除草とい
うか、そういうのというのはどんな状況かなというふうに思っているんで
すが、恐らく西小、絹川小あたりはそんなに問題ないんだろうというふう
には思うんですが、ちょっと私も全部見ているわけじゃないんですが、保
護者の数が減ったということで、なかなかそういう除草作業、奉仕作業が
難しいという部分があるのと、それから、昔というか大分昔ですけれども、
大体、奉仕作業というのは5月の下旬、それから8月の終わりというのが
定番だったと思うんですけれども、今はちょっと運動会の開催とかも変わ
ったので、ずれたりしているんだと思うんですが、恐らく昔だと、ちょ
うど草の伸びが云々とか、いい適期だったと思うんですけれども、今ちょ
とずれているので、なかなか適期をずらすといっぱい生えちゃって、きれ
いにするというのが難しくなっているのかなというふうに思うんですが、
その辺どんな感じなのでしょう。

教育長

藤田課長、分かる範囲で。

教育支援課長 確かに以前は8月終わりとか9月の頭に運動会の前のときにやっていたか
と思います。逆に今度は運動会が10月の中旬以降というふうになってい
ますので、10月頭であったり9月下旬あたりにその辺の機会を設けてい
るところが多いようです。

岩崎委員 実は21日に、20日に江川北小、江川北小は草でどうしようもなくな
っちゃって、PTA会長と本部会の人とで3人くらいでやって、その次の
日にやり切れなくて手伝ってほしいと、私も一緒にやったんですけれども、
やはりなかなかグラウンドは保護者のほうの人がやって、学童とか子供た
ちがいそうなところは避けてということで、一通り見えるところをやった
んですが、なかなか北小もやっぱり人数が減ったので、保護者の奉仕作業
だけではなかなか難しい部分があるのかなと。

それと、この前ちょっと13日ですか、大雨が降った関係で、雨が流れ
てグラウンドがちょっと凸凹なんで、それをどうしようかという話もあつ
たのはあったりして、軽トラックにH鋼でもつけてぐるぐる回ればいいん
じゃないかとかいう、そんな話もしたりしたんですが、そういうのもちょ
っと今後ね、夏休み明けの使用するグラウンドのそういうところも各校ど
うなっているか確認していただければなというふうに思います。

教育長 学校教育課、何かありますか。

学校教育課長 除草作業のところなんですけれども、通学路の合同点検ということで、
そういった除草の要望なんかも出ていますので、当然、道路管理者のほう
へお願いするんですけれども、やはり農地で耕作放棄地になっていて、そ
こから歩道のほうにはみ出ているという部分が結構あるんです。そういっ
たところは農政課ですとか農業委員会と協力しながら、そういった作業な
どもしております、なるべく子供たちの安全を確保するというところは
対策させていただいております。

グラウンドの件なんですけれども、この辺も各学校に照会をかけまして、
9月1日から気持ちよく迎えられるように、できる限りにはなってしまう
と思うんですけれども、その辺対策していきたいというふうに考えていま
す。

赤木委員 これ岩崎さん、小学校はおやじの会なんていう組織はないんですか。

岩崎委員 多分、結城南中……

赤木委員 南中はありますよね。

事務局 小学校はないですかね。

赤木委員 小学校はないんだ。

岩崎委員 ほかは分からないですけれども、北小なんかは顧問会とか、結構、農家
の人もいるので、役員さんとかそういうところで、除草作業とかそういう
プロフェッショナルがいるんで、それで有志を募ってやって、あとは奉仕
作業で。

中村委員 ちょっといいですか。今、話の中に出たグラウンド、大雨のときの城西
かな。かなりもう田んぼになっていたんですよね、グラウンドが。各学校

の状況というのは、やっぱり全部あれですか、引くスピードというのは学校の校庭によって違うんでしょうけれども、どこも冠水しちゃってましたかね。そういう状況を把握されていますか。

教育長 中村委員、去年の中学校の運動会の前、雨が降ったじゃないですか。あのときは全部もう冠水です。

中村委員 どこも。

教育長 どこもです。南中も、ちょうどサッカーゴールの前辺りから、結城中学校はもうとにかく50号線のトイレからこっち側の昔テニスコートがあったところがもう、ずっと、あそこが一番引けないです、水没です。結城中のトラックのほうも水没寸前。でも、一番、結中が水はけはいいんです。一番ひどかったのが東中なんです。東も当然、水取りなんかやっていて、あれだけ大雨になったらどこだって同じですよ。すばらしい排水施設、暗渠があったとしたって、たまりますよ。どこも子供たちと保護者と、あと先生らで水取りやっていて、どこもできたんですけれども、そういうところでやったら危なくてけがしちゃうんじゃないかと。

中村委員 あれは本当に困ったな、仕方ないといったら仕方がないんでしょうけれどもね。そうすると、全部がもうああいうふうな田んぼみたくなっちゃっているんだ。

岩崎委員 ちなみになんですけれども、グラウンドが雨で凸凹になったのをそういうふうには軽トラックに角材とかH鋼をやって、少しならしたりというのはやってもいいんですか。別に問題はないですか。

教育長 阿久津さん、何かありますか。

課長補佐兼施設係長 中学校は結構やっています。

岩崎委員 じゃ大丈夫なんですね。分かりました。

課長補佐兼施設係長 大丈夫です。

教育長 私らも結構やりましたしね。

教育長 後でまたありましたら、何かその都度連絡していただければと思います。赤木委員。

赤木委員 話は変わるんですが、教育長さんの凡事徹底の部分の中の（３）の児童生徒の小さな変化への気づきということで、自殺防止というお話をいただいていたんですが、やっぱり私もたまたまお盆のときにテレビでニュースを見ていたら、困ったことがあったらば、悩んだことがあったらば、相談機関にどんどん相談してくださいよ、文科省が準備したそういう相談機関のアピールだったんですけれども、やっぱり子供たちの様子を教員側が把握すると同時に、大事なことは、こういう相談機関が、相談できる場所があるんだよということ子供たちに日頃から伝えておく必要があるのかな。私も人権擁護委員なんかで毎年、年度初めの頃に学校にお邪魔して、ＳＯＳミニレター、困ったらここに書いてポストに投函してくださいね、そうすれば必ず返事が来ますよというＳＯＳミニレターという組織があるんですけれども、そういうものを利用してやっていくということが大事な

のかなと思うんです。

さっきも教育長さんのお話にあった9月には自殺者が非常に多い。去年、令和7年の子供たちの自殺538件だった。今、過去最高で、本当に五百八十何人の子供が自ら命を絶ってしまうというのはとんでもないことだと思うんですよね。本当に悲しいことだと思うんですけれども、やっぱりそういうものを防ぐために、そういう相談機関に遠慮なく相談してみて、少しでも心が和むような方向に持って行ってほしいということの資料なんです。その中で特に3枚目の保護者や学校関係者等の皆様へ、子供たちばかりじゃなくて、保護者はもちろんなんですけれども、学校関係者等の皆様へということで、今、学校運営協議会が盛んにその機能を充実させるというような呼びかけがあるかと思うんですが、そういうものも学校運営協議会のメンバーに配って、こういうふうな動きで学校はやっています、国はやっています、ぜひそういうところに地域の皆様のご協力をお願いしますということでアピールしていく必要があるのかなと思います。

それから、たまたま同じ時期に読売新聞で4日間にわたって連載で出たんですが、[STOP自殺井しんどい君へ]ということで、いろいろなタレントさんとかスポーツ選手が寄稿してくれたものがたまたま載っていたんで、なかなか面白いなと思って、古田さんの記事なんかも、部活でいじめがあったんだけど、自分では悩んでいた。近所の人でコーチをやってくれていた人が「転校しろよ」、その一言で本当に自分は救われたという内容なんです、そういう記事なんかも出ていました。

その中でも、4回、毎回同じ記事が、主な相談窓口、文科省でのSOSダイアルとか、チャイルドラインとか、生きづらびっととか、こういうものがあるということで、やっぱりどんどん子供たちにもそういう、困ったら頼れというふうなことを日頃から意識させていく必要があるのかなと思って。ちょうど文部科学大臣のメッセージを聞いていたときだったもんですから、ぜひこういうものも活用されるのといいのかなと思ってお持ちしました。

以上です。

教育長

赤木さん、本当に貴重な資料をありがとうございました。こちらのほうも有効に活用させていただければと思います。ありがとうございます。

では、報告第7号については終了させていただきます。ありがとうございました。

その他について何かございましたらお願いします。

和泉田課長。

学校教育課長

それでは、今後の予定について報告させていただきます。

9月定例会なんです、9月25日の金曜日、13時30分から、こちら場所が変わりまして、1回の多目的スペースになります。

10月の定例会なんです、10月26日月曜日、こちら時間のほうが15時からというふうになっておりまして、同日の13時30分から総合

教育会議がございますので、その終了後ということで、ご予約のほどよろしくお願いいたします。場所のほうは引き続きということで、大会議室1になります。

以上でございます。

教育長

ありがとうございました。

ほかに連絡等ありますか。

仁見課長。

スポーツ振興課長

カザフスタン空手チームのアジア大会における事前キャンプについてご報告いたします。

9月19日の土曜日から愛知県で開催されますアジア大会に向けた、本市がホストタウンを務めますカザフスタンの空手チームの選手、スタッフ合わせて19名ほどが9月7日に来結し、9月16日まで大会に向けた事前キャンプをかなくぼ体育館アリーナで行う予定となっております。空手競技においては、9月20日から9月23日までの日程で開催され、選手皆さんがメダル獲得を有力視される選手たちでございます。

以上、ご報告いたします。

教育長

ありがとうございました。

ほかにありますか。よろしいですか。

(発言する者なし)

教育長

それでは、以上で教育委員会8月定例会を終了いたします。

ありがとうございました。

午前11時15分 閉 会

上議事録は事実と相違するところがないことを認め、下に署名する。

結城市教育委員会教育長

結城市教育委員会委員